

||||||||||||||||
事例報告
||||||||||||||||

九州・長崎IRの誘致と国際観光人材の育成に関する一考察

竹田 文雄*・徳吉 剛**

(*人間社会学部**地域連携室)

A Study on Attraction of IR in Kyushu and Nagasaki and Human Resource Development for International Tourism

Fumio TAKEDA, Go TOKUYOSHI

*Faculty of Human and Social Studies

**Director of Regional Collaboration and Sports Support/Promotion Office

Abstract

On July 26, 2022, the Kyushu-Nagasaki IR Seminar was held online. The content of the seminar was an overview of the Kyushu-Nagasaki IR project and the job creation effects that the Kyushu-Nagasaki IR will bring. The seminar was recorded in a large classroom at the university, and some of the university's students had the opportunity to attend the seminar live in the large classroom. In conjunction with the Kyushu-Nagasaki IR Seminar, this study reviewed the current status of the "integrated resort (IR) including casinos," which Nagasaki Prefecture and Sasebo City are now playing a central role in attracting. Issues related to the development of human resources for international tourism were also attempted to be identified.

Key Words

Kyushu/Nagasaki IR, Casino, Job creation effect

要 旨

2022年7月26日に、九州・長崎IRセミナーがオンラインにて開催された。その内容は、誘致活動中である九州・長崎IRの事業概要等に関する説明、および九州・長崎IRがもたらす雇用創出効果等に関する説明であった。そしてこのオンラインセミナーの収録会場に本学大教室が使用されたことから、本学の一部の学生を当該大教室でライブ受講させる機会を得た。この九州・長崎IRセミナーの開催にともない、本研究ではいま長崎県と佐世保市が中心となって誘致活動を行っている「カジノを含む統合型リゾート（IR）」についての現況をあらためて整理した。その上で国際観光人材の育成についての課題の抽出を試みた。

キーワード

九州・長崎IR、カジノ、雇用創出効果

1. 研究の背景

2022年7月26日に、九州・長崎IR安全安心ネットワーク協議会準備会が主催する九州・長崎IRセミナーがオンラインで開催された。その収録が本学にて行われることがきっかけとなり、同日4講時の授業「地域観光研究Cヨーロッパ」を当該セミナーのライブ受講に振り替える機会を得た。

IR誘致活動が始まって以来、人々の関心は認可される自治体とカジノ弊害の可能性に集中し、また我が国で初めてカジノが認可されることから、カジノがもたらす可能性のあるギャンブル依存症や治安悪化などの弊害が一部の人々の間で声高に語られている。しかしながら、IRに関連するオンラインセミナーや公聴会が散発的に開催されていたにも関わらず、候補として名乗り出ている地方自治体も含めて、IRの概要についての認知度は一般的に高くはないと筆者は考えている。

今般の九州・長崎IRセミナーの開催にともない、九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会委員である筆者は、いま長崎県と佐世保市が中心となって誘致活動を行っている「カジノを含む統合型リゾート（IR）」についての概要と現況を本研究であらためて整理した。続く第2章では本学で開催された当該セミナーの概要と、九州・長崎IR構想につ

いてあらためて整理をした。第3章では当該セミナー開催前の受講学生に対するIRについての概説を示し、九州・長崎IRが日本版リトリート型IRであることを確認した。第4章では長崎新聞社のIRに関するアンケート調査を引用し、九州・長崎IRの構想や概要についての認知度が、当該IRに対する賛否に影響を与えることを示した。そして第5章ではリトリート型IRの設立を見据えた国際観光人材の育成について整理し、人材育成手法についての課題の抽出を試みたものである。

2. 九州・長崎IR（特定複合観光施設）セミナーの概要

2.1 開催日時

2022年7月26日（火）14:40～16:10

2.2 主催者

九州・長崎IR安全安心ネットワーク協議会準備会
長崎県IR推進課

2.3 本セミナーの目的

ギャンブル依存症対策への理解を深めるとともに、九州・長崎IRにおける取り組み内容について共有し、さらに九州・長崎IRがもたらす雇用効果等について、地域活性化の観点から理解を深めるために開催された。

図表1：九州・長崎IRの概要

九州・長崎 IR 基本構想	
総事業費	4,383億円
所在地	長崎県佐世保市ハウステンボス町
エリア面積	約32ha
総床面積	約64万km ² (うちカジノ施設は3%以下)
主要事業	概要
MICE施設 (Saseboメッセ)	最大6,000席の国際会議場と延床面積約20,000m ² の展示城が併設した複合MICE
魅力増進施設 (ジャパンハウス)	劇場・物販・飲食・美術館等の複合エンタメ施設
送客施設	観光文化資源のショーケース機能、コンシェルジュ機能、待合機能を兼ね備えた複合ターミナル
宿泊施設	国際的なホテルブランドと提携し、旅館を含む4棟の宿泊施設を設置、合計客室数は約2,500室
滞在促進施設	ショッピングモール、ミュージアム、メディカルモール、レストラン等
附帯事業施設	船舶運航、ローブウェイ運営、パークアイランド運営、マリーナ運営等
カジノ施設	上質なヨーロッパスタイルのカジノ設置

(出典：セミナー配布資料（株式会社ヒト・コミュニケーションズ「九州・長崎IRがもたらす雇用創出効果等について」 p2から筆者作成）

2.4 セミナー次第

2.4.1 第1部 テーマ「【九州・長崎IR】事業概要等に関する説明」

説明者：

- ・ KYUSHUリゾートジャパン株式会社
- ・ Casinos Austria International Japan株式会社

説明概要：

- ・ 施設計画の主な概要(IR施設概要、カジノ施設概要)
- ・ 懸念事項対策（ギャンブル依存症、／治安・地域風俗環境／危機管理・防災／感染症）。

図表2：九州・長崎IRの雇用構想

九州・長崎 IR 雇用基本構想	
区域内雇用者数	9,693人
直接雇用者数	7,331人
間接雇用者数	2,362人
雇用開始時期	直接雇用者は2025年から採用開始予定。
採用方法	総合採用センターの設立により採用機能を集約し必要人数の雇用を達成。

(出典：セミナー配布資料（株式会社ヒト・コミュニケーションズ「九州・長崎IRがもたらす雇用創出効果等について」 p4-p10から筆者作成）

2.5 本学学生に対する開催案内

本学ポートフォリオシステムにより、全学生及び全教職員に対して次の様に案内¹⁾。

「現在、長崎県・佐世保市が進めている「九州・長崎IR（特定複合観光施設）」・・・、皆さんはどのようにお考えでしょうか？

○IRを誘致することで長崎県・佐世保市がどのように変わるのか？

○IRが誘致されると「ギャンブル依存症」が増える！？その対策は？

○IRがもたらす雇用効果等は？ 特に雇用については、どうなるの？

等々、様々なことが、想像されるかと思えます。

それらの疑問点を本セミナー受講することで少しでも解消し、理解していただければと思っています。ぜひ、参加してみませんか？」

本セミナーを本学学生に案内した目的は、長崎

2.4.2 第2部 テーマ「九州・長崎IRがもたらす雇用効果等について」

説明者：

- ・ 九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会

- ・ 株式会社ヒト・コミュニケーションズ

説明概要：

- ・ 主に雇用創出効果の説明。
- ・ IRの職種詳細の紹介、従業員満足度向上（ES）方針の説明など。

県や佐世保市が九州・長崎IRの誘致を進めている理由、また学生を含めた若年層に対するIR誘致のメリット・デメリットについての認知度および理解度を高めるためである。

2.6 その他補記

多数の学外関係者も本学1101教室にて当該セミナーをライブで受講した。

3. セミナー受講前の準備

当該セミナーは学生のIR認知度を高める機会であると考えられたため、事前の通知とシラバス変更の上で、当日の授業コンテンツを当該セミナーの受講に変更した。また当該セミナー開催の前週、7月19日の「地域観光研究Cヨーロッパ」の授業では、次週のセミナー受講のための予習として、IRについての一般的な概説に加えてヨーロッパのIRの解説を行った。

図表3：1101教室でのセミナーの様子（写真）



（出典：日経電子版2022年7月26日掲載「長崎IRに600～800の職種必要」から転載）

3.1 IRについての一般的な概説

日本最大規模の国際会議場施設と展示場施設、エンターテインメント施設、及び日本に初めて導入されるカジノ施設などで構成されるIRは、誘致先、すなわち認定される区域及びその周辺地域に新たな膨大な人の流れと多様な経済的効果をもたらすことが期待できる。年間延べ来訪者数840万人が想定されている九州・長崎IRであるが、この来訪者総定数は近接するハウステンボス年間入場者数のおよそ3倍の規模である²⁾。したがってこのようなIRは巨大な誘客装置とも称することができる施設群である。

このIRとは、英語のIntegrated Resortの略称であり、直訳すると統合型リゾートである。ただし我が国の観光関連諸法令には、特定複合観光施設区域、もしくは、カジノを含む統合型リゾート、と記載されている。

またIR（Integrated Resort・統合型リゾート）という言葉が一般的に使われ始めたのはシンガポールのIR設立期からである。シンガポールのマリーナ地区とセントーサ島の2か所に巨大なMICE³⁾施設、ハイエンド層に対応可能なグレードのホテル、ショッピング施設、ダイニング施設、映画館、テーマパークおよびカジノ施設などを一挙にまとめて立ち上げたことが統合型リゾートの名称の由来である。

なお、ラスベガスやアトランティックシティなどアメリカのIRは賭博場としてのカジノ設立が先行し、MICE施設やエンターテインメントが後追いで設立された。またヨーロッパのIRは湯治場や避暑リゾート

に端を発して、カジノやMICE施設などの設立が続いた経緯が、それぞれの特徴として挙げられる。

図表4：九州・長崎IRイメージ図



（出典：長崎新聞社WEB版2022年4月13日掲載「国内外から673万人が来訪 長崎IR開業5年目見込み」から転載）

3.2 ヨーロッパのIRについての解説

ヨーロッパのIRの一番の特徴は、保養地から発展した個々の施設の規模は決して大きくは無いものの、各施設が一軸となってMICEを誘致し、結果的にその地域全体でIRの機能を形成している点である。また保養地や湯治場に端を発して、カジノやMICEだけでは無く、癒しやリフレッシュ、ウェルネスなどにも力点を置いている経緯から、ヨーロッパのIRはリトリート型IRとも称される。

例としてモナコ公国のモンテカルロやドイツのバーデンバーデンなどが挙げられる。モンテカルロでは、カジノ・ド・モンテカルロとグリマルディ・フォーラム（コンベンションセンター）が徒歩約10分の距離に位置し、その沿道にはフェアモント・モンテカルロやホテル・ド・パリのようなMICE参加客層に対応できる複数のホテルが立ち並ぶ。この徒歩約10分の距離圏にある諸施設でIRを形成しているのである。また同じくヨーロッパのIRとして例示されることの多いドイツのバーデンバーデンも、カジノとコンGRESハウスが徒歩約8分の距離にあり、モンテカルロと同様にその街全体でIRを構成している。

IRの諸施設を一挙に立ち上げるプロセスがシンガポール型IRと同様とも見做される九州・長崎IRであるが、長崎県および九州全域の観光資源や温泉資源などを背景に持つ点では、既存のシンガポール型

図表5：Grimaldi Forum Monaco (GFM)外観



(出典：Grimaldi Forum Monaco (GFM) HPから転載)

図表6：Kurhaus Baden-Baden 外観



(出典：Baden-Baden Kur & Tourismus GmbH HP から転載)

IRとは趣が異なる日本型IRと認識できる。よって本稿では九州・長崎IRを、ヨーロッパ型IRの流れを汲む日本版リトリート型IRと区分する。

なお、ヨーロッパで開催される展示会・見本市 (EXHIBITION) には大規模なものが散見される。例えば毎年10月にドイツで開催される「本の見本市 (Buchmesse)」は、5日間でおよそ30万人が来場する規模であり、この見本市を開催するフランクフルトは広大な敷地に建つ巨大な見本市会場を有している。フランクフルト以外にも、ドイツのハノーバー、イタリアのミラノ、スペインのバルセロナのような見本市開催都市が複数存在する。ところがこれらの大規模な展示会・見本市は、保養地がカジノを設立することからスタートしたヨーロッパ型IRの応需能力を上回る場合が多い。その為、ヨーロッパ型IRはMICEの「M/I/C」誘致に軸足を置き、「E/見本市・展示会」には注力しない傾向が伺える。

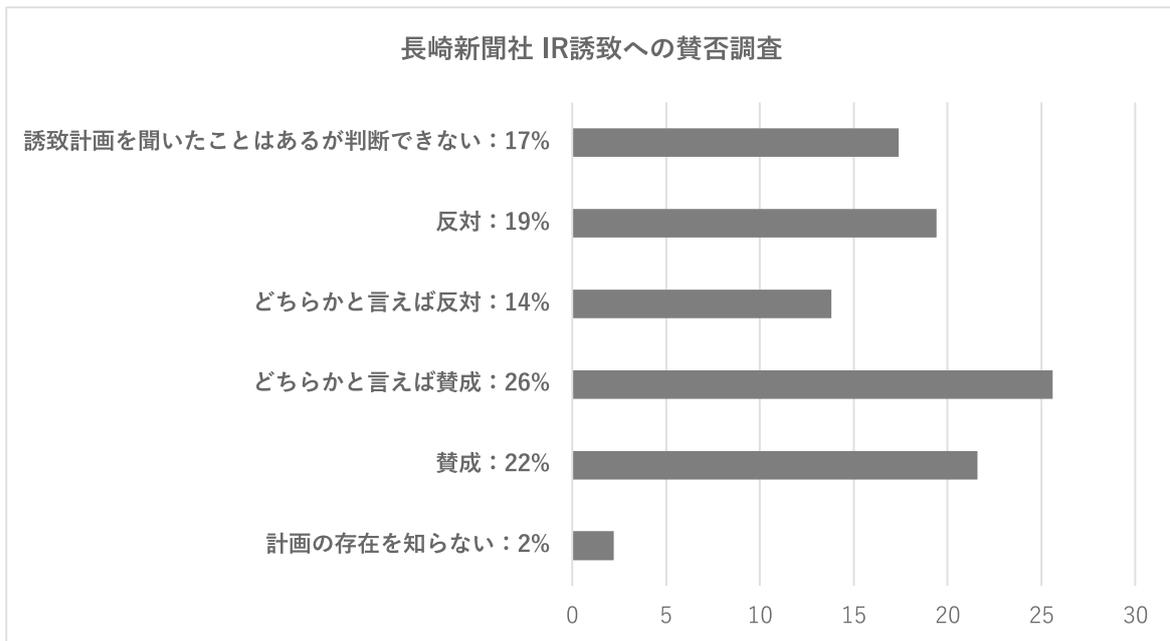
九州・長崎IR基本構想では、新設する国際会議場施設の規模を国内に現存しない「収容人数6,000人以上」と設定し、同じく新設する展示会等施設を「規定の最小限度枠である2万㎡」に留めている。この点は上述のヨーロッパ型IRのコンセプトと合致している。これは「九州・長崎IR基本構想」がその設計段階からヨーロッパのIRを意識してきた為であろう。

4. 長崎新聞社のIRに関するアンケート調査について

ここで、長崎県内有識者を対象としたIRに対する意識調査を取り上げる⁴⁾。記事内容の要旨は以下のとおりである (一部抜粋引用)。

「長崎新聞社が県内有権者500人アンケートでその賛否を聞いたところ、「賛成」「どちらかと言えば賛成」は計48%。これに対し「反対」「どちらかと言えば反対」は計33%。「誘致計画を聞いたことはあるが判断できない」は17%で、「計画のメリットとデメリットがよく分からない」など情報不足を指摘する声も挙げられた。「誘致計画の存在を知らない」は2%。年代別では、賛成派の割合が最も高いのは40代の58%で、30代と18~29歳も50%前後。だが50、60代は40%程度、70代以上は22.2%で高齢層ほど反感を持つ傾向がある。賛成派の理由にも、観光振興、雇用創出、所得増加、を期待する言葉が並ぶ。「観光の起爆剤として県全体にいい効果をもたらす」、「全世界に向けた「長崎」の発信強化につながる」といった待望論もある。一方、反対派の多くは、カジノ設営によるギャンブル依存症や治安の悪化を危惧。ハウステンボスのイメージダウンを懸念する意見もあった。」

図表7：長崎新聞社 IR誘致への賛否調査



(出典：長崎新聞WEB版2022年1月10日掲載「長崎県知事選 県民500人アンケート」から筆者作成)

上記、長崎新聞社の調査では、「反対」と「どちらかと言えば反対」のシェアが33%を占めている。また「誘致計画を聞いたことはあるが判断できない」と「計画の存在を知らない」のシェアが19%を占めている。そして「反対」を表明するシェアが19%のみであることを踏まえたこれらのシェア分布から、九州・長崎IRについてはその構想や概要を知る機会が不足していたのではないかと考えられる。新型コロナウイルス感染予防のために集会などは自粛され、IRに関連する説明会などへの参加機会が少なかったことがその理由に挙げられる。

この結果、九州・長崎IRの構想や概要についての認知度が、当該IRに対する賛否に影響を与えることが推察できる。よって上述の傾向から、一般県民を対象とするセミナーなどIRを知る機会がオンライン開催を含めて継続して持たれることで、IR誘致に賛成のシェアが高くなる可能性はあると推察できる。

5. IRの設立を見据えた国際観光人材育成について

5.1 九州・長崎 国際観光人材育成コンソーシアムの発足

当該セミナーを受講した学生のIR理解度が向上し、またIRに関する理解が深まるとともに、IRが

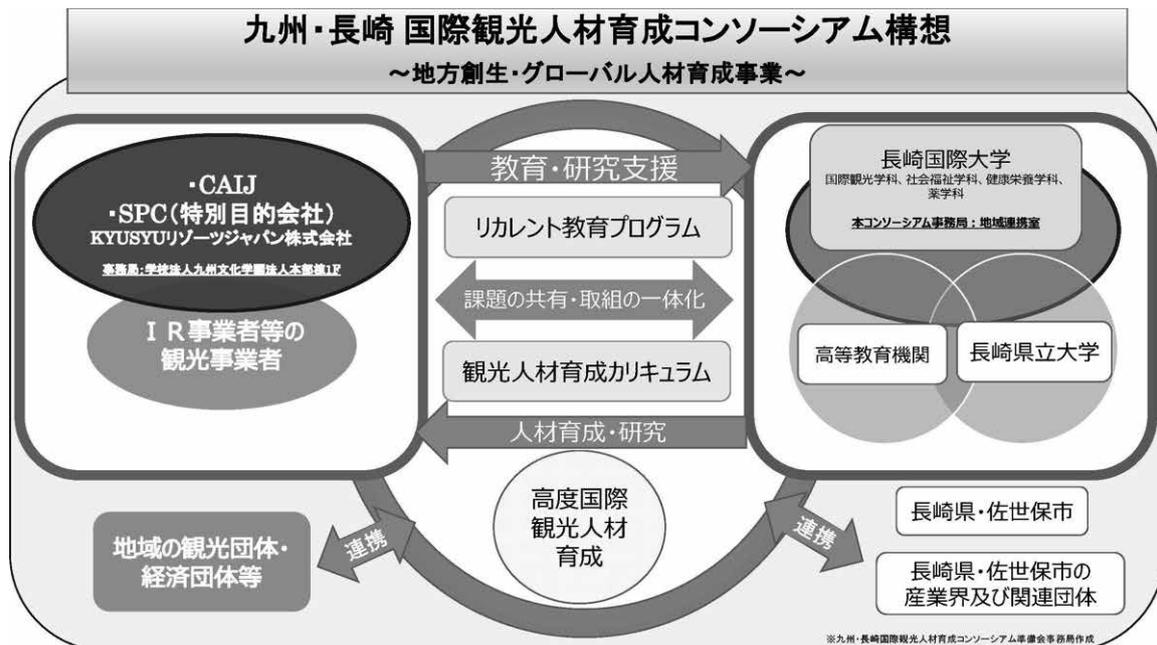
設立された際には就職先候補として考える学生が増加すると推察できる。九州・長崎IRセミナーの第2部では、九州・長崎IRの区域内雇用者数9,693人とオリエンタルランドの雇用者数5,375人が示され、九州・長崎IRの雇用創出効果の規模が強調された。またIRにおける職種紹介や従業員満足度（ES）向上の方針が紹介されるとともに、直接雇用者の採用が2025年から開始される旨の説明が為されたが、これは2022年度時点の本学2年生が新卒就職先として選択できることを示している。

このことから、MICE施設、ホテル、インバウンド旅行者誘致促進施設、エンターテインメント施設、およびカジノ施設など、数多くの職種に国際観光人材が必要とされる九州・長崎IRの誘致が決定し、設立された際には、このIRは本学学生の就職先として大きな存在となることが予測できる。

そのため、このIRの誘致を見据えた上で、国際観光人材の育成を促進するコンソーシアム（共同事業体）の準備会が、長崎県、佐世保市、長崎県立大学、長崎国際大学の4者にて2021年4月に発足した。

IRの誘致が決定された際には、当準備会の運営はコンソーシアムに移行し、「九州・長崎IR」が求める国際観光人材育成機関の中核となる予定である。

図表8：九州・長崎 国際観光人材育成コンソーシアム構想展開イメージ



5.2 国際観光人材について

はじめに観光庁の観光人材政策からその一部を引用する。

我が国の観光産業においては恒常的な人手不足に加え、稼げる観光地域づくり・地域経営を実現できる人材が不足しています。観光産業の国際競争力を高めていくためには、地域を支える人材の確保・活用等を推進するとともに観光産業をリードする人材の育成・強化が不可欠となっています。

1. 2022年度（令和4年度）の取り組み

リカレント教育等を通じて地域の観光産業をリードする人材の育成・強化を行うとともに、新たな雇用体系を取り入れた人材の確保・活用等を推進し、観光産業の収益力向上、人手不足の解消を推進します。

上記引用から、地域の観光産業をリードして国際競争力を高めていく人材が、観光庁の示す国際観光人材であると読み取れる。

なお、IR誘致を見据えた国際観光人材について、筆者が着目する点は以下の二点である。

- ・日本語と英語が共通語。さらにその他の言語も理

解し会話できる人材。

- ・グローバルな視野とコミュニケーション能力を兼ね備えた観光のエキスパート。
- また、九州・長崎IRの雇用取り組み方針⁵⁾には以下のように記述されている。

- ・ジョブ型採用を積極的に取り入れ、キャリアパスを明確化。
- ・各施設が大規模で高いクオリティの為、職種も細分化され専門性が高い。

よって筆者は、上記の筆者着目点と九州・長崎IR雇用取り組み方針を概観し、IRが求める国際観光人材を以下のように整理した。

- ・多言語での業務遂行が可能。
- ・グローバルな視野とコミュニケーション能力を兼ね備える。
- ・明確なキャリアパスに基づくジョブ型採用を理解できる。
- ・求められる高いクオリティと高い専門性にチャレンジできる。

九州経済調査協会によれば、2050年の長崎県人口は83万人、2020年度比でマイナス36.3%まで減少すると推定されている⁶⁾。長崎県が抱えるこの喫緊の課題に対し、IRの誘致によって、長崎県および佐世保市の地域活性化、ならびに人口減の抑制の見通

しが好転することが期待されている。

加えて、九州・長崎IR区域整備計画（案）概要の「国際観光人材をはじめとした幅広い人材の確保・育成」の項には、その方針が以下のとおり記述されている⁴⁾。

5.2.1 人財育成面

- ・本IR事業者や地域の大学等と連携した国際観光人材育成の枠組み推進。
- ・セミナーや認証制度を通じたホテルコンシェルジュ、ガイド等の観光人材育成支援。

5.2.2 確保・定着面

- ・協定に基づく大学や労働局との連携を通じた県内定着・UIJターン就職の促進、高度人材を含めた企業と人材のマッチング促進、企業の採用力強化等の企業支援。
- ・留学生と企業の交流会、多文化共生の推進等による外国人材の就職・定着支援。

5.3 まとめ

国際観光人材の育成には、一般的に、IR事業者や地域の大学等と連携した人材育成の枠組みを推進することが挙げられており、実習（インターンシップ）およびリカレント教育の導入などが重要となるのがこの部分から読み取れる。しかしながらIR設立を見据えた国際観光人材の育成には、実習とリカレント教育の実践に加えて人材育成と人材定着までを見据えた上での、上述筆者とりまとめ項目や人材に関する方針を踏まえた地域の大学等における教育体制の構築が必要である。大学機関においては既存のカリキュラムツリーに影響を及ぼすことも想定されるが、PBL型教育手法の促進とともに、今後、さらに具体的な実現に向けて考察を深めていくことが求められる。

6. 結語

今般の「九州・長崎IRセミナー」受講の最大の効果は、IRの概要や取り組みについて、本学の学生が直接説明を受ける機会を得たことである。長崎新聞社のアンケート調査を引用して考察すると、当該セ

ミナー受講学生のIRに関する理解度は確実に深化したと推察する。また今般のようなセミナーに参加することは、IRを理解する為に、またそのメリットとデメリットの双方を理解する為にたいへん有意義であると著者は考える。

IRの理解度が深まることで、その職種、業務、雇用体系などを知り得ることから、学生、転職者、およびリタイア者も含めたIRへの就職を志望する者は増加すると推察できる。そして九州・長崎IRの誘致が決定した際は、IRに就職を志望する人材およびIRが求める人材を育成する機関の設立が求められるであろう。また、その際にはIRが求める国際観光人材の育成手法が課題となるが、具体的な検討はIR誘致が決定した後のスタートとなるであろう。

最後に、九州・長崎IRは地域観光推進とのシナジー効果を期待できるリトリート型IRとして構想が練られているので、カジノやMICEが牽引するIRとは異なる、観光業に長けた人材が求められる可能性もある。九州・長崎IRが独自に求める新たな国際観光人材像の可能性については、考察と研究を継続していく。

注)

- 1) 本学イントラシステム「manaba」に掲載されたオンラインセミナー受講募集案内（2022年7月20日付、地域連携室作成）より。
- 2) 長崎県・KYUSHUリゾートジャパン株式会社 2022年4月 九州・長崎IR区域整備計画（案）概要より。
- 3) Meeting（会議）/Incentive-Travel（研修旅行・報奨旅行）/Convention（国際会議等大型会議）/Exhibition（見本市・展示会・イベント）の略。
- 4) 長崎新聞WEB版（2022a）「長崎県知事選 県民500人アンケート IR誘致賛成47%、反対33% 佐世保一定理解 高齢層反感 2022年1月10日掲載」より。
- 5) セミナー配布資料（株式会社ヒト・コミュニケーションズ「九州・長崎IRがもたらす雇用創出効果等について」p4-p10より）。
- 6) 長崎新聞WEB版（2022b）「2050年の長崎県人口83万人 減少率 九州・山口で最大 九経調推計 2022年10月5日掲載」より。

参考・引用文献

観光庁（2022）：「観光人材政策（2022年5月18日更新）」
<<https://www.mlit.go.jp/kankoch/shisaku/jinzai/>

- renkei.html> (2022年12月25日閲覧)
- ジェイソンハイランド (2019) : 『IRで日本が変わる
カジノと観光都市の未来』 角川新書
- 白木由香 (2018) : 「シンガポールの観光事業の発展に
ついて」 『東海学院大学紀要』 12巻pp111-116
- 竹田文雄 (2022) : 「統合型リゾート「日本型」に求め
られる「型と規模」についての考察」 『長崎国際大学
論叢第22巻』 pp75-84
- デービッドアトキンソン (2015) : 『新・観光立国論』
東洋経済新報社
- 長崎県・KYUSHUリゾートジャパン株式会社 (2022) :
『九州・長崎IR区域整備計画 (案) 概要版』
- 長崎新聞WEB版 (2022a) : 「長崎県知事選 県民500人
アンケート IR誘致賛成47%、反対33% 佐世保一定
理解 高齢層反感 2022年1月10日掲載」
<<https://nordot.app/853084502235693056>> (2022年10
月21日閲覧)
- 長崎新聞WEB版 (2022b) : 「国内外から673万人が来訪
長崎IR開業5年目見込み 2022年4月13日掲載」
<[https://www.nagasaki-np.co.jp/kijis/?kiji
id=886790691685597184](https://www.nagasaki-np.co.jp/kijis/?kijiid=886790691685597184)> (2022年10月21日閲覧)
- 長崎新聞WEB版 (2022c) : 「2050年の長崎県人口83万
人 減少率 九州・山口で最大 九経調推計 2022年
10月5日掲載」
<<https://nordot.app/950197281826996224>> (2022年10月
21日閲覧)
- 那須幸雄・佐々木正人・横川潤 (2008) : 「わが国にお
ける大学の観光教育の分析—現状と動向—」 『文教大
学国際学部紀要』 第18巻2号 pp67-79
- 日経電子版 (2022) : 「長崎IRに600~800の職種必要
2022年7月26日掲載」
<[https://www.nikkei.com/article/
DGXZQOJC265GG0W2A720C2000000](https://www.nikkei.com/article/DGXZQOJC265GG0W2A720C2000000)>
(2022年10月21日閲覧)
- 根木良友・折戸晴雄 (2015) : 「日米欧比較による観光
人材育成のカリキュラムとインターンシップに関する
研究」 『日本国際観光学会論文集』 第22号 pp73-80
- フィリップランジュニユー=ヴィヤール/成沢広幸訳
(2006) : 『フランスの温泉リゾート』 白水社
- 森尾真之・井上英也 (2020) : 「「欧州型」リゾートを
モデルとした地域観光の在り方—長崎県における
MICEによる観光の可能性—」 『長崎国際大学論叢』
第20巻 pp47-64
- Grimaldi Forum Monaco (GFM) : HP (2022)
<<https://grimaldiforum.com/en>> (2022年10月21日
閲覧)
- Baden-Baden Kur & Tourismus GmbH : HP (2022)
<[https://www.baden-baden.com/en/media/attractions/
kurhaus-baden-baden#/article/6a29d2cf-d12b-4be0-
b951-3781d5fd2398](https://www.baden-baden.com/en/media/attractions/kurhaus-baden-baden#/article/6a29d2cf-d12b-4be0-b951-3781d5fd2398)> (2022年12月23日閲覧)